

佳作

オランダ語への挑戦

オランダ ロッテルダム日本人学校五年 海東 巨

「アリヨネ先生が、オランダ語は巨君がいいんじゃないって言ってたよ。」

「ええっ、本当ですか。」

僕は、秋華祭でハーリングのオランダ語役をすることにになった。秋華祭とは、日本では文化祭とよんでいるもので、各学級で劇や合奏をしたり、習字を展示したりする。僕は、この秋華祭を毎年楽しみにしている。

僕は、台本を読んでみて、意外と簡単じゃなかった。でも、アリヨネ先生の前で試しに言ってみたら、ことごとく発音を直されてしまい、僕はその難しさを改めて知った。

僕は今、オランダに住んで二年半になるが、少ししかオランダ語を話せない。だから、以前から話せるようになりたいと思っていたので、とにかく練習に取り組んだ。アリヨネ先生も休み時間に僕のセリフを毎日聞いてくれた。そんなとき、根釜先生が、

「アリヨネ先生が君のセリフ、テープにぶきこんでくれたよ。」

と、一本のテープを持ってきた。僕は、アリヨネ先生が僕のために、ここまでしてくれたことに驚いた。それと同時にとてもうれしくて、これで絶対言えるようになる、と気持ちが大きくなった。

そして、テープを聞き始めて一週間後、いつも通りアリヨネ先生に聞いてもらった。そしたら先生は、口を大きく広げて笑いながら、親指をぐつと立てて、

「オーケー、ベリーグッドウ。」

と言ってくれた。僕は、思わずピョンと立って、笑いながらアリヨネ先生に

「サンキュー、サンキュー。」

とお礼をたくさん言った。僕は、急に何だかオラ

ンダ人になれたような気がした。でも、もっと発音を良くしようと、それから、何度もテープを聞いた。

そして、秋華祭当日。いよいよ僕達の出演。『ツハハツハーリング。』

と歌いながら日本語、英語、オランダ語役のハーリング三人が出ていった。そして初めのセリフを言う時、正面に思ったより客がいたので、うえっと思つて後ろに一歩さがってしまった。でも、途中でこれじゃあ練習した意味がないと思つて、思い切つて前に出て、セリフを言った。リハーサルでもつかえていたオランダ語が、面白いようにどんどん言えた事には、僕自身も驚いた。

劇が終わったら、先生が、
「オランダの人達がほめてたよ。」

と言ってくれたし、お母さんは、
「あの三人トリオ、最高。」

と言ってくれて、本当に成功したんだ、自分ですごいなあと思つた。

今回のことで、何だつて努力すれば出来る、その喜びは大きいと分かった。今までオランダ語を積極的に話せなかったけど、これからは自信を持ってどんどん使っていきたい。

